
冷たい雨

冬桜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

冷たい雨

【Nコード】

N4724L

【作者名】

冬桜

【あらすじ】

雨降る中に佇む人影。

雨が降っている。先ほどまで、ポツポツとたまに顔を叩く程度だったのに、今ではどしゃ降りだ。雨の一つ一つが、雨の一本一本が執拗に全身の体温を奪っていく。曇天の空は止むことを知らない。それは、この世界を洗い流そうとしているのかもしれない。不必要なものたちの居場所を奪うために。それは、この世を嘲り笑っているのかもしれない。まだ、その場に立っていたのかと。けれど、私には空が泣いているように見える。涙を忘れた人のために。

まだ、私はそこにいた。終わることのない雨音を聞きながら、たち続けている。そして見ていた。流れていく雨の間で生きている人々たちを。傘を差しながら、友達と談笑する人がいる。何がそんなに楽しいのだろうか。これほどの雨が降っているというのに。雨の中を懸命に走っていく人がいる。何をそんなに必死になっているのだろうか。走れば走るほど雨に打たれるというのに。

冷たい私はここにいる。雨ですら、私の熱は奪えない。私は雨よりも冷たいのだから。ただ、少し思う。天と地の狭間で揺れる人たちは雨に打たれても、心がとても温かい。その人たちは確かに今を生きている。

私は冷たくここにあるだけ。心をどんなに温めようと、その全ての熱は消え去ってしまう。なのに、今は少しだけ温かい。

泣けない私はここにいる。だから、雨もここに降るのだろうか。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4724/>

冷たい雨

2010年11月23日06時05分発行